

## JICA 中国事務所ニュース 2月号

### 目次

#### 【最近のトピックス】

- ◎ 「食品安全管理体制強化プロジェクト」始動! ..... 1
- ◎ 5.12 を忘れない ～北京日本人学校にて～ ..... 2
- ◎ 農村社会養老保険プロジェクトを振り返って ..... 2
- ◎ 中西部リプロダクティブヘルスプロジェクト総括セミナーを実施 ..... 3

#### 【ニュース】

- 中西部リハビリ人材養成プロジェクトで JICA-Net セミナーを実施 ..... 4
- 四川大地震復興支援  
～草の根無償プロジェクト署名式を実施～ ..... 4
- 2008 年度青年研修事業「JOCV 日本語青年教師」訪日研修スタート ..... 5
- 中国輸銀セミナーが東京で開催 ..... 5

#### 【人の動き・主要行事】 ..... 6

#### 【寄稿コーナー】 ..... 6

#### 【中国の動き】 ..... 7

### 最近のトピックス

#### ◎ 「食品安全管理体制強化プロジェクト」 始動!



実施に向けて力強く握手

8 月に受けた赴任前のブリーフィングでは「倉科さんが赴任するところには R/D(実施にかかる合意文書)は結ばれているはずですから」といわれていたこの案件。赴任からちょうど 4 ヶ月目の 2009 年 1 月 19 日、ようやく

合意文書締結にこぎつけました。サインに向かう途上の車の中にまで文言の訂正についての電話がかかり、「本当にサインできるのか?」と不安な気持ちでしたが、サイン後は春節をはさんだ時期にもかかわらず、2 月 23 日からの青島でのセミナー開催に向け、日中双方が猛ダッシュで準備を進めています。

今回のプロジェクトは「中国の輸出入食品の残留農薬及び動物医薬品の検査体制が整備される」ことを目標に、日本での研修と中国国内での研修を組み合わせ 2 年間行われます。プロジェクトの規模は決して大きいものではありませんが、この協力は日本をはじめとするアジアのみならず、世界の食の安全にかかわる非常に意義の大きい協力です。ようやく、ようやく始まったプロジェクト。両国で協力し、最大限の成果を上げることができるよ

う、がんばりたいと思います。

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)

◎ 5.12 を忘れない  
～北京日本人学校にて～



緊急援助隊の写真に真剣な目が向けられました

2月6日に北京日本人学校で、中学校3年生と小学校6年生を対象に四川大地震における日本の国際緊急援助隊の様子を紹介しました。当時、中国で大きく報道された日本の救助チームの様子と、日本大使館やJICAのスタッフが裏方として行った食料や水などの調達、連絡業務などの様々な活動について、現地で撮影した写真を見てもらいながらお話ししました。

5階建ての校舎が潰れ、「3階建て」になってしまった北川中学校の校舎、ぺちゃんこに潰れた机、搬送に使われた担架・・・少し刺激の強い写真もありましたが、ちょうど同じくらい年頃の生徒さんの多くの尊い命が一瞬にして失われた状況を伝えたいと思い、敢えて見ていただきました。

また、ある中国人の方が、救助チームの団長に送ってくださった再建が進む北川中学校の様子も紹介することができました。人の記憶は時間の経過とともに風化していきますが、当時のことを忘れずに、こうして情報を提供していただけることは本当にありがたいことです。被災の状況を見て、言葉を失っているような生徒さんも、北川中学校の生徒さんが笑っている様子を見てほっとしているようでした。

生徒さんたちは、お話の間みな熱心に耳

を傾けてくれ、写真の紹介が進むにつれて、まなざしが真剣になっていく様子がよく分かりました。質問コーナーでもたくさんの質問をしてくれ、短い時間でしたが、お話するほうもとても刺激になりました。

お話が終わった後には、実際の現場で着ていた緊急援助隊のベストや帽子を着用してもらい、少しでも援助隊員の気分を味わってもらいました。ちょっぴり誇らしげな様子はとても微笑ましいものでした。

(改革開放・ガバナンス班 林宏之)

◎ 農村社会養老保険プロジェクトを振り返って  
～最後に見せた画期的な前進～



雲南省楚雄自治区の農家を訪問(左側は筆者)

中国政府は、1980年代後半から農村社会養老保険制度(農保制度)の普及を政策目標に据え、1992年から各地で試行を開始しました。都市と農村の経済的格差が増大し、それに加え高齢化が急速に進行し、さらに土地を収用された農民及び出稼ぎ労働者の増加、農地の減少等により、今まで農村部で伝統的に土地や家族が担ってきた高齢者の扶養能力が弱体化し、社会的な老後生活保障機能として公的年金制度を整備する必要があります。この様な状況の中で、2006年1月から始まった「農村社会養老保険制度整備調査」は2009年1月10日、北京で開催されたセミナーを以って完了しました。

本件の目的は次の四つ、①「県」レベルの八つの協力対象地区で試行している制度の改善案の策定、②人材育成及び普及啓発体制の整備、③農保制度情報管理システムの

構築・整備、④全国に普及していくための政策提言を取りまとめることでした。

本件は一から新たに年金制度を構築するのではなく、既に中国政府が進めている制度を支援するものでした。当初、カウンターパート(人力資源・社会保障部、以下「人社部」)は既に制度の基本的な構造は出来ているので、むしろ円滑な制度運営のために情報管理システムの構築、人材育成、普及啓発が重点課題であると主張していました。しかし、試行制度のレビューを行った結果、現行農保制度は公的年金制度には程遠く、私的個人年金、もしくは個人貯蓄制度というべきものであることがはっきりしました。本来公的年金制度とは、高齢になった時の所得保障や遺族・障害保障を社会の構成員全員で支える相互扶助の仕組みです。従って対象者全員加入が不可欠です。ところが現行農保は、人社部によれば「中国農村部の特有の事情を踏まえて」任意加入制を堅持するとの主張でした。

この点を巡っては大いに議論をしましたが、結局平行線のままで互いの相違点を埋めるには至りませんでした。一方で有力な中国人専門家とも制度改善に関し積極的に意見交換を行った結果、多くの賛同を得られたことから、農保制度の長期的、持続的な発展を見据え、本来公的年金制度として備えるべき条件、役割を盛り込んだ全員加入制の制度改善提案を行いました。

終始一貫して任意加入制の農保制度の有効性を主張していた人社部担当局長が、1月のセミナーの最後に発言を求め、「任意加入制は将来問題を引き起こす可能性があるので、さらなる研究を進めなければならない」と問題提起をしたのです。これは全く予想外の発言でしたが、画期的な前進であり、本件の提言が全員加入制の公的年金制度として農保制度が整備されて行く貴重な第一歩となることを心から願っております。

(調査団総括、ニッセイ基礎研究所 長田 守)

## ◎ 中西部リプロダクティブヘルス家庭保健プロジェクト総括セミナーを実施



3年間の活動を締めくくり、家庭保健の未来を展望しました

2月13日から15日にかけて、技術協力「中西部地域リプロダクティブヘルス・家庭保健提供能力強化プロジェクト」の総括セミナーを江蘇省太倉市にある中国リプロダクティブヘルス家庭保健研修センター(CTC)において、実施しました。

プロジェクトは今年の3月末をもって終了する予定ですが、今回のセミナーはこれまでの3年間の活動を締めくくる場として、プロジェクトの成果を共有し、今後の中国側の方向性を議論するために開催したものです。カウンターパートである、国家人口計画生育委員会、CTC、対象省関係者や、日中専門家など100名を超える関係者が参加する中、様々な発表、議論が行われました。

日本側専門家からも、日本の経験紹介や中国での家庭保健の展開の方向性やポイントについて、国立保健医療科学院の林謙治次長が講演を行いました。プロジェクトの対象省や日中専門家の発表、グループ討論などを通じて、出席した関係者は多くの情報を共有することができたとの感想を持ったようです。中国の中央政府に対する要望意見も出てくるなど、今後の家庭保健サービスの実施に向け、中国側の強い意志が感じられるセミナーとなりました。

モデルサイトとして活動してきた8県・区には、最後にプロジェクト実施の認定証書が授与されました。今後の活動においても積極的に取り組んでいくことが期待されます。また、



中国中西部全域において、このプロジェクトで進めてきた家庭保健という概念・サービスがより広く普及し、住民の皆さんの健康改善

につなげていくことが望まれています。  
(保健・医療/社会保障班 坂元芳匡)

## ニュース

### ■ 中西部リハビリ人材養成プロジェクトで JICA-Net セミナーを実施



初めてのライブ講義の体験でした

1月16日、中西部リハビリテーション人材養成プロジェクトでは JICA の TV 会議システム JICA-Net を活用し、遠隔教育教材の作成に関するセミナーを開催しました。

リハビリ・プロジェクトでは、中西部の3モデルサイトを対象に遠隔教育システムを活用した人材育成に取り組んでいます。実際の指導や教材作成は北京の中国リハビリテーション研究センター(CRRC)のスタッフが行うこととなりますが、今回のセミナーでは遠隔教育の基本的な考え方や効果的な遠隔教育教材の作成方法について理解してもらうことが目的でした。

当日は、遠隔教育分野で豊かな経験を持つ熊本大学大学院社会文化科学研究科の鈴木克明教授に講師をお願いし、東京と中国をつないで、TV 会議システムによるライブ講義の形で行いました。

セミナーは終始、和やかな雰囲気が進められ、活発な議論や質疑応答も行われました。今後プロジェクトでは今回のセミナー同様、ライブ講義の実施も予定されており、CRRC のスタッフは逆に講師の立場となります。この

セミナーの受講者としての経験も活かして、より良い教育を行っていくことが期待されます。  
(保健・医療・社会保障班 宗雪)

### ■ 四川大地震復興支援 ～草の根無償プロジェクト署名式を実施～



これからも被災地への復興支援を続けていきます

2008年5月12日、四川省で多くの被害者を出した大地震が発生しました。地震発生後、日本政府は迅速な対応をし、国際緊急援助隊救助チームと医療チームを派遣するとともに、多くの緊急物資を現場に送りました。その後、地震復興支援のために被災地の政府関係者が訪日研修等の活動を展開し、地震被災地復興での日本の経験紹介等を行ってきました。

今回日本政府は地震復興支援の一環として、被災地に対し草の根無償プロジェクト8件と緊急援助として被災地に救急車を提供することを決定し、2009年1月14日にその引渡式が成都市で行われました。

今回の引渡式には中国側は四川省副省長、商務部の易小準副部長が、また日本政府を代表して宮本大使が出席し、JICA 中国事務所からは山浦所長他が同行しました。1月13日に将巨峰四川省長が日本側一行と会見し、地震発生からこれまでの日本政府と

日本社会の多大な支援について高く評価し、感謝の意を表しました。宮本大使からは日本としては被災地が復興するまで協力を続けていく意を表明されました。

署名式の後には被災地である都江堰市で、市人民病院と仮設住宅を視察しました。現場からも日本の援助に対する市民達の感謝の言葉が多く語られました。宮本大使は仮設住宅に入り、市民と親切に対話をしながら市民達を激励しました。

(改革開放・ガバナンス班 林哲浩)

#### ■ 2008 年度青年研修事業「JOCV 日本語青年教師」訪日研修スタート！

2月23日、2008年度青年研修事業(注)「JOCV日本語青年教師」グループ団員10人が北京で訪日前のオリエンテーションと歓送レセプションに参加しました。これらの青年たちは日本青年海外協力隊員が活動している学校から推薦された優秀な青年教師で、黒龍江省、内モンゴル自治区、湖北省、四川省、江西省、安徽省、遼寧省、山東省から集まりました。

研修員は、共に2月24日から3月13日までの18日間日本を訪問します。滞在期間中、千葉県の中小中学校、千葉大学等を訪ね、大学などの留学生を対象とした日本語教育プログラム、コミュニカティブ・アプローチの理論と実践を学び、ネットや放送を利用した遠隔教育を行うためのコンテンツ作成能力の開発、実際の施設を利用した体験型実習を通して、教育機関に通って学習することのできない人々へのインタラクティブなカリキュラム開発を体験します。また、関連分野の日本人との意見交換、茶道や日本庭園等日本の伝統文化を体験する予定です。

(注)青年研修事業(旧青年招へい事業)は、1986年に当時の中曽根首相が訪中した際に、日中の青年交流を通じて相互理解を深め信頼と友情を築くことを目的に、胡耀邦総書記(当時)との合意に基づきスタートした事業であり、いよいよ22年目を迎えます。2008年度末まで

に各計画で合計4,635名の青年を受入れました。(相互理解班 王莉)

#### ■ 中国輸銀セミナーが東京で開催！



中国輸銀の朱副頭取にもご参加いただきました

1月13日と14日の二日間にわたり、東京において中国輸出入銀行(以下「中国輸銀」)(注)とJICAとの共催で、対外経済協力案件のオペレーションとリスク管理に関する合同ワークショップを実施しました。今回のワークショップには、中国輸銀朱副行長をはじめ、主要部門の総経理クラスの職員合計28名が参加しました。当事務所からはナショナルスタッフの李飛雪所員、郝志涛所員、黄涛所員の3名が中国輸銀と日本側の調整のために同行しました。

ワークショップに先立って、研修団は神戸市にある「人と防災未来センター(阪神淡路大震災博物館)」を視察しました。同センターでは大震災の折にどういった状況であったかを知ってもらうための映画等が準備されており、一部の参加者は、その内容に涙する場面もあったようです。

ワークショップでは、JICAが行っている途上国向け経済協力のうち円借款の案件形成や評価手法、リスク管理方法等について、双方の取り組み状況を紹介し合い、幅広く有意義な意見交換が行われ、司会者が「最後の質問です！」と言っているのに、複数人が質問に手を挙げるほど活発に議論が行われました。

今後、当事務所を中心として、さらなる中国輸銀との関係強化のために、同種の経験交流会、国際会議のサイドイベント開催等も

検討していく予定です。

(注)中国輸銀は、1994年に中国政府によって設立された政府系金融機関であり、中国企業による輸出入や海外投資の促進のための金融

支援や、中国政府が行う対外経済協力のうち、相手国政府向け等の低金利、長期返済期間の優遇借款の実施等を担当しています。

(円借款班 登坂宗太)

## 人の動き ・ 主要行事

### (1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

なし

### (2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

立場 正夫(2009.2.16~2011.2.15)  
循環型経済推進プロジェクト

イ. 帰国

なし

<ボランティア>

ア. 赴任:

なし

イ. 帰国:

なし

### (3) 事務所員等の動き

<日本人所員>

ア. 赴任

なし

イ. 帰国

なし

<ナショナルスタッフ>

ア. 採用

なし

イ. 退職

なし

### (4) 2月の主要行事

- ・ 青年研修「JOCV日本語教師研修」現地オリエンテーションと歓送レセプション(2/23)

## 寄稿 コーナー

### (1) 中国四川地震被災者支援 ～綿陽市における越冬支援物資配布を振り返って～

2008年10月31日から2009年1月13日まで、日本国際民間協力会(NICCO)はジャパン・プラットフォームの助成を受け、四川省綿陽市北川県陳家坝鎮において越冬支援物資の配布を実施し、私も支援チームの一員としてプロジェクトに参加しました。今回は、そのときのことをお伝えしたいと思います。

地震が発生した2008年5月12日、テレビのニュースを見て、13年前(地震発生当時)の光景が甦りました。当時12歳だった私は、

実家のある神戸で阪神淡路大震災を体験し、家が全壊したため、しばらくの間不自由な生活を余儀なくされました。四川の人たちも、きっと同じような苦勞をしているのであろうと想像し、心配しておりましたが、まさか自分が被災地に赴き、微力ながらもお役に立てるとは夢にも思いませんでした。

最初の数日を北京で過ごした後、四川省の成都に拠点を移し活動を本格的に開始しました。私にとって今回が初めての中国訪問だったので、成都の発展具合に驚かされました。同時に、成都市内には地震の被害がほとんど見られなかったため、被災地でも、それほ



ど被害はひどくないのかと思いましたが、実際に被災地を目にしたときは、あまりにも大きな被害、そして被災から6か月が経過しても倒壊した建物がそのまま残っている状況に、言葉も出ませんでした。



住民に冬用の布団を配布している小松さん

同僚とともに被災地域の方々から、今何を必要としているのか、どんなことに困っているか、等の聞き取りを進める中で、中国の政府がしっかりとした復興の対策を講じていることに安心しつつも、まだまだ草の根レベルの支援を必要としている人がたくさんいると実感しました。

本事業のパートナーである四川国際民間組織合作促進会(四川民促会)の協力を得て、各レベルの地元行政との調整を行い、最終

的に「極度重災区」に指定されている陳家坝鎮の住民 12,443 名を対象に、冬用の衣類、布団を配布しました。大量の物資を購入し、四方を山々に囲まれた同鎮に輸送するのは、NICCOの国際スタッフと現地で共に働いた中国人スタッフ全員が一丸となって努力しなければ、成し遂げられない作業でしたので、物資を受け取った住民からお礼の言葉を頂いたときは、自分が少しでも彼らの役に立つことができた喜びに胸がいっぱいになりました。NICCO は、今後も四川の地震被災者支援を引き続き実施する予定ですので、何らかの形で私もプロジェクトに携わり、中国との関係を息の長いものにしていきたいと考えています。(社団法人 日本国際民間協力会(NICCO) 小松幸治)

(注)中国でのパートナー機関を探すために、NICCO 代表ご一行は当事務所を訪問し、NGO デスクは中国国際民間組織合作促進会を推薦した結果、その後被災地での事業展開の成功へ結びついています。

## 中国の動き

### 春節の花火



至るところに花火売場が出現します

春節(旧正月)は中国で一番重要な伝統的休暇。この春節は花火、爆竹で始まりま

す。

春節(旧正月)前日、除夜の夜(1月25日曜日)、「花火をやりましょう!!」と事務所内に呼びかけると、集合時間が23:15という異常な時間にもかかわらず、事務所職員、上京中のボランティア、元事務所職員等関係者とその家族がわらわらと20人ほど、集合場所の麦子店の龍宝大廈ロビーに集まってきました。

まずは、花火の調達。龍宝大廈からみんなでぞろぞろと5分ほど歩いたところにある、春節臨時花火売り場に出向き、集めた会費30000円ほどで、大小さまざまな花火を買い揃

えます。もちろん爆竹は必須。にぎやかに新年を迎えなければ、良い年になりません。また、新年を華々しい年にしようと、メインとして会費の半額以上を費やして 119 連発打ち上げ花火を購入しました。



0時に爆竹が鳴り響きました

花火を抱えて、広場にたどり着いたのが、23:40。もうそこら中で花火、爆竹の音が響き渡っています。われわれも負けじと、花火を開始。手持ちの花火や、爆竹、打ち上げ花火、地面に置いての噴出し花火などなど、打ち上げては鳴らし、鳴らしては打ち上げる。周りの花火の音もどンドンエスカレートしていく中、楽しいのを通り越して、参加者の中の数人はゲラゲラ笑い出したり、踊りだしたりしてしまう始末。

さあ、気がつくとも0:00数分前。さながら映画の市街戦シーンのように爆竹、打ち上げ花

火が鳴り響く中、新年を迎え、0:05頃、われわれのメインイベント 119 連発打ち上げ花火点火！ 新年の夜空に華々しく連発花火が舞い上がったのでした。

騒々しい中、みんなの声が聞こえるよう密に集まって「明けましておめでとう」の挨拶の後、解散しましたが、帰り道も、まだまだ爆竹、花火が鳴り響いています。恐る恐るの帰宅となりました。

中国の旧正月。楽しいですよ！！ 花火は鑑賞するのも面白いけれど、周りでバンバン爆竹が鳴り、ボンボン打ち上げ花火が炸裂する中、旧正月に酔いしれながらいっしょに花火をするのは最高です。皆さんも、是非是非、中国旧正月の花火を体験してください。

(ボランティア班 古川寛)

=====  
\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。  
=====

\* その他お知らせ

JICAのホームページ: チマイナ ライブラリー (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チマイナ トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>